

《株式会社エフエム東京 第403回放送番組審議会 議事録》

1. 開催年月日:平成 25 年 11 月 12 日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数 6 名(社外 6 名 社内 0 名)

◇出席委員(4 名)

横 森 美 奈 子 委員長	渡 辺 貞 夫 委員
香 山 リカ 委員	秋 元 康 委員

◇欠席委員(2 名)

内 館 牧 子 委員	西 田 善 太 委員
------------	------------

◇社側出席者(11 名)

富木田 代表取締役会長  
千 代 代表取締役社長  
唐 島 専務取締役  
石 井 常務取締役  
平 常務取締役 営業局長  
藤 取締役 マルチメディア放送事業本部長  
山 科 常勤監査役  
村 上 執行役員 編成制作局長  
延 江 編成制作局 ゼネラルプロデューサー  
宮 野 編成制作局 編成制作部長  
松任谷 編成制作局 番組プロデューサー(オブザーバー)

◇社側欠席者(0 名)

【事務担当 村上放送番組審議会事務局長】

4. 議題: 番組試聴 (約 27 分)

三菱商事 presents FM FESTIVAL 2013  
未来授業～明日の日本人たちへ～「ニッポンの転換点・未来を創る」  
11 月 4 日(月・振休) 16:00～19:00 放送

<<議事内容>>

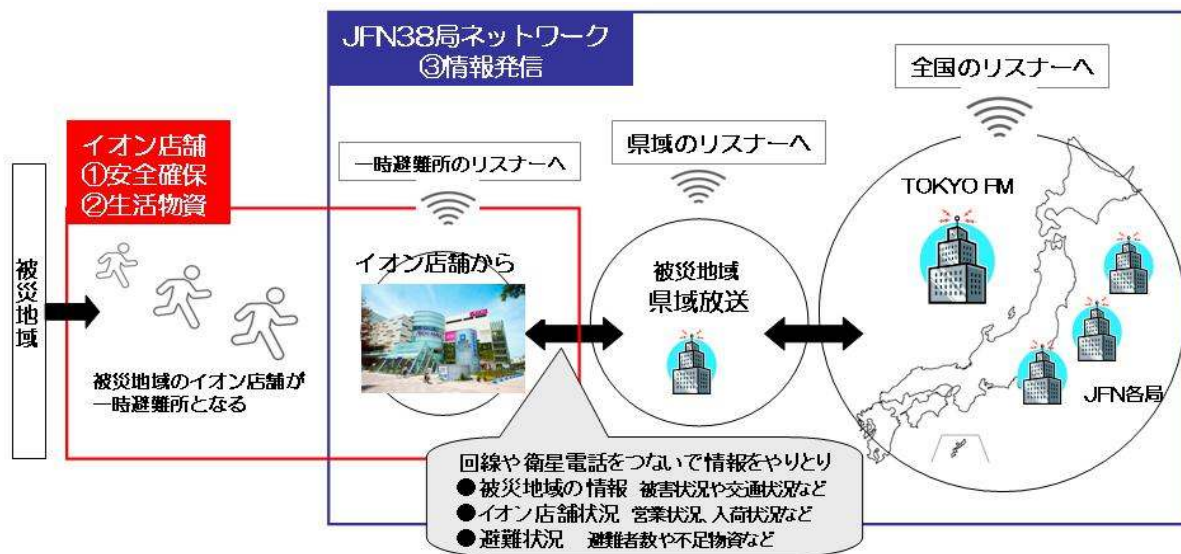
議題1:最近の活動について

◎イオン株式会社との「災害時における総合防災ネットワーク構築に関する協定」  
縮結

2013年11月1日、当社をはじめとするJFN38局は、イオン株式会社と「災害時における総合防災ネットワーク構築に関する協定」を締結いたしました。

これは、全国38局のFMネットワークと、地域のくらしのライフラインとして、防災拠点の役割を担うイオンが連携することで、災害時に必要な「安全確保」・「生活物資」・「情報」を全て兼ね備えた防災拠点を全国に構築していくものです。

具体的には、イオンの店舗と、その所在地にある県域FM局を、回線や衛星電話など状況に応じた手段で結んで情報をやりとり致します。店舗の一時避難者に情報を伝えながら、イオン担当者から、周辺の被害状況、避難所の様子、店舗の営業・サービス情報、物資の供給状況等をFM局に提供し、その情報を、県域放送や全国ネット放送を通じて発信します。将来的には、自治体と連携し、近隣住民の方々に地域情報を発信することを目指します。



東日本大震災当時、イオンでは、東北の3店舗を一時避難所として解放し、住民の「安全確保」と「生活物資」を提供しました。その際、避難住民から最も多かった要望は「タイムリーな情報が欲しい」というものでした。

一方、TOKYO FM/JFNでは、震災発生直後より1週間にわたり全てのCMゾーンを休止し、被災者目線に徹した災害報道に徹しました。中でもFM岩手の要請による釜石支局のサテライトスタジオ開設と、釜石市の要請による臨時災害FM局開設を支援。これにより、知られていなかった釜石市のリアルな被害状況を、FM岩手で県域へ、更にはJFNを通じて全国へ発信。また逆に、最新情報を釜石市の被災者にお伝えしました。

<第 403 回放送番組審議会 議事録>

災害時こそ、被災地のリアルな情報を吸い上げ、ネットワークを通じて、地域・県域・全国のリスナーに情報を有機的に組み合わせて発信することが求められます。

イオンとTOKYO FM/JFNでは、日本で初めて「安全確保」「生活物資供給」「情報」を兼ね備えた、総合防災拠点を、イオンの大型店舗を中心に全国に設置していく予定です。

両社は、今後も広範囲にわたり、地域の皆様の利便性を追求して参ります。

## 議題2: 番組試聴 (約27分)

【番組名】 三菱商事 presents FM FESTIVAL 2013  
未来授業～明日の日本人たちへ～「ニッポンの転換点・未来を創る」  
パーソナリティ: 茂木健一郎、古賀涼子(TOKYO FM アナウンサー)  
ゲスト講師: 安藤忠雄(建築家)、池上彰(ジャーナリスト)、  
スプツニ子!(アーティスト)

【放送日時】 11月4日(月・振休) 16:00～19:00 放送

### 【番組概要】

2010年度からスタートした、FM フェスティバル 未来授業。

知性、感性、野性という若い世代の3つのセンスを刺激し、グローバル化の中で自らの立ち位置、足元を見つめ、自らのこととして思考、自らがイノベーションを起こすように触発することをコンセプトに、時代のオピニオンリーダーである「知の先達」が大学生と真剣に向き合い、10年後に社会の主軸となる若者たちへの生きるヒントを討論形式で届ける「知の授業」としてスタートして4回目を迎えました。

今年、東京・京都・広島の3会場で、計7名の講師陣による未来授業を開講いたしました。

東京会場に登壇したのは、現代アーティストで、この秋から、MIT、マサチューセッツ工科大学・メディアラボ助教に就任のスプツニ子!(『～はみだす力が変えるニッポンの未来～』)、大阪「住吉の長屋」、瀬戸内海・直島の「地中美術館」から、イタリア・アルマーニ劇場、ベネチアの現代美術館「プンタ・デラ・ドガーナ」などで有名な建築家で東大名誉教授の安藤忠雄氏(『生きる力』)、ジャーナリストで東工大教授の池上彰氏(『未来を生き抜く「武器」としての教養～大学で何を学ぶか～』)、そして、現役大学生との会話を通して東日本大震災で傷ついた心の復興を描いた著書『心』が今年30万部を超えるベストセラーとなった国際政治学者で聖学院大教授の姜尚中氏が登壇しました(過去の未来授業を振り返りながら『幸福の在り方を問いかける～』という授業)。

本日は、その中から、東京会場に登壇した安藤忠雄(建築家)、池上彰(ジャーナリスト)、スプツニ子!(アーティスト)の3人の講師の授業のダイジェストをお聴きいただけます。

番組の進行は、初年度から番組のパーソナリティを担当いただいている茂木健一郎氏です。

放送当日は、出演者である茂木健一郎、スプツニ子!両氏のツイート協力も得ながら、twitter上で「未来授業」のワードの拡散に努めました。結果、放送と平行して、番組の枠を飛び越えてソーシャルな領域で未来授業にまつわる様々な議論が広がり、「ス

「ブツニ子！」の名前が放送中に Yahoo!検索急上昇ワードで首位を獲得するなど、「放送→つぶやき→検索→放送→つぶやき→検索」の理想的な繰り返しが生まれました。番組終了後に配信されたビデオポッドキャストも、昨年配信開始時の倍を上回る初動となり、日本国内全てのポッドキャストにおいて第2位を獲得、ラジオ局配信の中では首位となっています。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見 / 「■」社側説明)

○レベルの高いお話にもかかわらず twitter やポッドキャストが盛り上がるということで、それだけ日本に意識やリテラシーの高い若い人がいることは希望が持てる話だ。一方で、日本には少なからず、モチベーション低く、自信もない若者がいるので、その人たちの下支えの役割を担うようなもっと易しい方向性の違う教養番組が存在してもいいかもしれないと感じた。登壇者が真剣に話されているのが伝わり、刺激的だった。

○この番組がいいのか悪いのか判断しかねる。講師の方たちが言っているのはもっともだが、そういうことよりも、目的をもって生きている人たちが、技術的などを教わる番組だったら良いと思う。アドバイスを受けるような授業、頭だけ勉強しても、体験しなくては意味がないので、そちらの授業をやった方が良いのではないか。

先生方はいいことおっしゃっていたが、教わる前に自分で解決する問題。質問している学生の寂しさ、恵まれた環境でなんでも教わってきた生徒が多いと感じる。

○これだけのキャスティングで、すごくいい番組だが、未来の授業というにはどうなのだろうと感じた。こういうところに来て一生懸命聞いている人は、成功しないと思う。人の話を聞かないで勝手にやっている人こそ、成功しているのではないか。

もうちょっと雑な未来の授業ができないか。安藤忠雄さんは、ボクサーから東大の教授になったか、なぜコンペになってきたかの話が面白い。理論を知らないから自由に発想できて、その後に理論がついてきたという話だ。

次の未来の授業は、まず動け、まず歩め、まず立ち上がれというところから始まると思う。失敗しないと何も生まれない。

先生方のお話を聞いて、賢く前向きになったような気になる講義マニアみたいな人に向けるのではなく、そんなのくだらないと思っているような人の、エネルギーを出す方法を考える方がいいと思う。

○昨年の未来授業も、もう一度ポッドキャストで聴きたいような番組だったが、今回も番組としては素晴らしいと思った。ポッドキャストの DL 数が倍というのは素晴らしい。スプツニ子！さんが良い起爆剤になっていた。お歴々の中になぜこの人がいるの？という点で効果的で、思わず検索してしまった。名前でエキセントリックなイメージが先行

していたが、しゃべっている内容がまともで、認識を新たにした。

こういうのは、学生が聴くよりも、真に受けすぎずにいいところを選んで聞ける大人が聴いた方が楽しいかもしれない。

祭日の 3 時間べったり聴くスタイルはどうなのか？

■番組を聴きながら、リスナーが twitter で感想をつぶやき、お互い横のつながりが生まれる聞き方は、3 時間あって盛り上がった。番組放送の直後に、ビデオポッドキャストを公開した。容量の多いコンテンツをいかにダウンロードしてもらうかに注力している。

○ラジオの未来形として、ビデオポッドキャストとの連動は、新たな方向性として良いと思う。画像が入ると印象度も違う。

○講師の“授業慣れ”もある。所要時間からネタが自然に決まってくる。それはだんだん摩耗していく。もっと下手な人がやった方がいい。その方が真実がある。

○ソーシャルメディアと連動して楽しむなら、生放送も良いのではないかな？ 野球なども twitter で実況しながら一緒に観るような感覚が面白い。

■可能性はある。スプツニ子！さんのように twitter を日常的に駆使している講師なら、会場の学生と twitter でやりとりしながらの進行などもありえると思う。

○この放送やポッドキャストをきっかけに、そこから動き出す学生が出てくることに期待したい。

○今後は、みんなが知っている講師ではなく、TOKYO FM から人気に火がつくような講師が出てきたらいいと思う。東進の林先生のように、予備校講師や大学教授など、まだまだ面白い人は隠れている。

## 5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

## 6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送: 番組「SPO☆LOVE」  
11 月 30 日(土)5:00～7:00放送
- ② 書面: TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット: TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回の放送番組審議会を、12 月 3 日(火)に開催することを決めた。

5 年ごとに更新となる地上波基幹放送局の免許の再交付を 2013 年 10 月 25 日、総務大臣よりいただいたことを、千代社長から報告した。その際に受けた要請事項を番組審議委員に伝達し、資料配布を行った。

以上